

JAAP 撮影会のご案内

2013-1b



Photography by Hiroshi Seo

JAAP では、毎年継続して内容の濃い写真展を行っていくために、飛行機写真愛好者のみなさんの写欲に応える撮影会等を、夏以降もいろいろ計画しています。日程を確定できない会もありますが、2013 年度の計画を発表します。また、確定次第お知らせを更新してまいります。

まず既報のように、8月10日(土)には、「SKY GRAFFITI 2013」一般公募部門応募者の希望者とともに、「合同審査会」を行います。その作品の善し悪しを見定める、いわゆる選球眼を磨く、刺激ある会にしたいと考えています。

羽田 8 月船上撮影会

その翌日、8月11日(日)には、「羽田 8 月船上撮影会」を行います。夏の南風であれば、離陸は RWY16 となり、このページの作例のような写真が撮れるでしょう。

募集人数は 10 人です。この日は東京湾華火大会の順延予備日となったことから船宿の都合がつかず、当初計画から船が代わることになりました。0800 時出港、1300 時帰港の予定です。

最小催行人員は 7 人。会費は 15000 円です。

参加ご希望の方は、airworks@mua.biglobe.ne.jp (JAAP 会長) まで「羽田 8 月船上撮影会参加希望」としてメール下さい。折り返し詳しいご案内をお送りします。

予備日については、「SKY GRAFFITI 2013」東京六本木展開催中の 10 月 6 日(日)に再設定の予定です。

成田博物館屋上撮影会

8 月 31 日(土)には、成田の RWY34L アプローチ脇にある航空科学博物館屋上における撮影会を行います。これは今年 3 度目の計画です。予備日は 9 月 1 日(日)。

集合は坂下のゲートに 0600 時。特別に早朝から入場させて頂き、到着初便頃からの撮影を行います。RWY34L 到着機はレベルかやや上となり、この場でしか望めないアングルになるでしょう。16 運用であれば、朝の早い LCC やカーゴ機に向かってくるタキシングを撮影できます。

RWY16 運用の場合は、欧州向け長距離便の低い離陸も狙え

[右上] 2012 年 8 月の成田の航空科学博物館屋上撮影会における、D800E + 500mm によるお昼過ぎの撮影です。RWY16R を離陸する A380 ですが、高さある場所のため、やはり仰ぐ度合いが抑えられています。多少仰いでもいいのなら、さらに短いレンズでも対応できるでしょう。昼前から逆光となってきますが、機体が白ければ、画像補正によりシャドーを明るく持ち上げることが容易だし、背景の雲の調子を出すこともできるはず。また、RWY34L の離陸機の場合は、その機種らしい風貌を誘導路上にとらえることも可能です。

[右] 成田の RWY34L は、以前は奥まったところが接地ポイントでしたが、新たにフルレングスの運用になったことから、本年 1 月に行った博物館屋上撮影会での B.737 です。これは D4 + 70-200mm (200mm) により、機影をほぼアビームでとらえています。さらに長めのレンズを使い、もう少し送り気味にすると、機体の主脚が水平線に触れるなど、同高度感が得られます。日没は 1640 時の日でしたが、これは 1716 時の撮影で、冬の視程の良さの賜でしょうか、水平線に影となった富士山が突き出しています。



[左] 羽田 RWY16L を離陸する B.777。2010 年 12 月 25 日の JAAP 船上撮影会での、D35 + 500mm による撮影です。揺れる船からの超望遠撮影はリスクが伴いますが、今回使用する船は幅広く、展望デッキも広く、結構撮りやすいはず。必要あればさらに滑走路に寄り、もう少し短いレンズの使用も可能です。また、冬は太陽低く、早朝の順光条件がすぐ逆光に変化していくのに対し、夏は、太陽はより北寄りから上がり、順光の時間帯も長くなり、満足いく撮影機会が得られると思います。

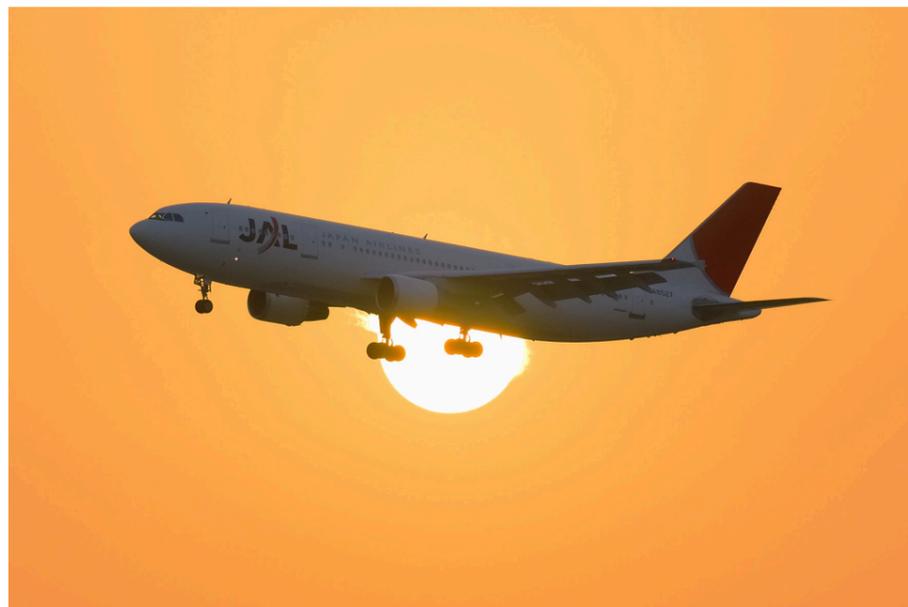
[上] JAAP は例年、晴れが保証された関東の冬に、羽田で船上撮影会を行ってきました。夏の開催は、今回が初めてです。ある程度のリスクを負っても、新たなシーンを模索したいのです。夏雲を背景のイメージ写真はないかと探し出したのが那覇・瀬長島における 1 コマ。08 年 7 月、D200 + 80-400mm (130mm=実効約 200mm) での撮影ですが、盛夏となれば、羽田 D 滑走路沖でも輝く積乱雲など、季節感あふれたシーンが得られるのではないかと期待しています。





[上] 機体の底に夕陽を受けて羽田RWY34Rを離陸するB.747。2007年、空港の対岸にある中央防波堤奥（D滑走路工事現場事務所付近）から、D200, 500mm+TC14（700mm）により撮影。実効1000mm+となりますが、比較的自由的なポジショニングができる船上撮影では、これほどの長玉は必要ないでしょう。北風であればD滑走路の沖へも行けます。南風であればC滑走路の離陸機やB滑走路の着陸機を狙えます。

[下] 羽田D滑走路誕生以前は、RWY16Lが着陸にも使用されていました。タイトな旋回の後、16LにアラインするA300を、2005年に城南島海浜公園北側で撮影したものです。D70 + 300mmを使用。RWY22に到着機がアプローチする場合、城南島の沖で、沈みゆく太陽に合わせて船を動かし、順々に仰ぐ角度を減らしていきます。すると、地上の場合はほぼワンチャンスのところ、複数回の撮影機会が生まれるはず。また、日没を過ぎたデリケートな空の色を背景に、ロゴライトに照らされる垂直尾翼、光もれるキャビン窓、という時刻まで撮りたいと考えています。



ると思います。昼過ぎまで撮影した後は、長めの昼食タイムと自由時間とし、夕刻1600時に再集合、逆光夕日の撮影を行い、日没すぎまで頑張る予定です。

募集人数は10人、参加料は特別入館料を含み3500円とします。参加ご希望の方は、事前に登録が必要です。airworks@mua.biglobe.ne.jp（JAAP会長）までご連絡下さい。参加の可否、その他のお知らせをお送りします。

羽田夕景船上撮影会

このページには懐かしくも古い写真を掲載しました。JAAPとしても初の試みで、夕刻の逆光下で夕陽と飛行機がからむはずの撮影会です。

「羽田夕景船上撮影会」は、前述の「羽田8月船上撮影会」と同日、8月11日（日）にダブルヘッダーで行います。予備日は後日設定いたします。

募集人数は10人。1600時出港、1930時帰港の予定です。最小催行人員は7人。会費は15000円です。

参加ご希望の方は、airworks@mua.biglobe.ne.jp（JAAP会長）まで「羽田夕景船上撮影会参加希望」としてメール下さい。折り返し集合場所等詳しいご案内をお送りします。



[上] 12年3月に行ったJAAP関空船上撮影会・午後の部での一例です。日没1時間ほど前、RWY24Lにアプローチするタイ航空のA330。背景の雲の染まり具合を逃さぬよう、D35 + 500mmでの撮影です。沈みゆく太陽にからむ機影も、超望遠系・ワイド系ともに何コマが得られました。関空は陸から離れた人工島です。展望ホール「Sky View」以外に撮れそうな場所はなかなか見つかりません。船から撮ると、撮影範囲が広がります。

[下] 11年12月に行った関空船上撮影会・午前の部でのベトナム航空のA330。雲の多い日でしたが、この日の早朝は雲のブルーホールから差し込む光が非常にドラマチックでした。これは光が安定的となった1030時頃。やはり雲は多いですが、運良く空港と機影には光が回っています。D35 + 70-200mm（200mm）での撮影ですが、画像補正ではこの雲をかなり強調し、機体の銀塗装、青い尾翼、ターミナルの屋根、そして海面が、どことなく融和しつつも主張もしている、といった感じを出そうとしています。



関空船上撮影会

JAAP 写真展「SKY GRAFFITI 2013」大阪展を12月20日～26日に開催予定です。その会期中の日曜日22日、関空における船上撮影会を行います。

泉佐野を夜明け感のある早朝0700時に出港し、1300時頃までを前半とし、一旦漁港に戻り長めの昼食タイム。1600時頃から再出港し、日没後まで後半の撮影をする、撮影条件が変化の中身の濃い撮影会です。

募集人数は15人。最小催行人員は10人。会費は15000円とします。

参加ご希望の方は、airworks@mua.biglobe.ne.jp（JAAP会長）まで「関空船上撮影会参加希望」としてお早めにご予約下さい。折り返し詳しいご案内をお送りします。

これらの他、気象の良好な羽田や成田の冬には、さらに撮影会等のイベントを計画します。時折、日本航空写真家協会のHP <http://jaap-net.jp/> をチェックしてみてください。